

放送番組を使った学習

私は、塾や予備校に行ったことがありません。

すでに、受験生の相当数が塾に行った世代なので、ちょっと変わった部類に入るかもしれませんが。しかし、習うことも大切だが、自分でじっくり学ぶことはさらに大切だと感じています。

小6の時に、NHK 教育ラジオで「基礎英語」がある宣伝を受け取った。おもしろそうだったので聞いた。小島義郎先生の講義で、今の英語とはちがうが、とても興味を持って聞いた。

高校では、成績はどん底だったが、日本短波放送で「百万人の英語」を聞いた。

「ニュースで英会話」に出演している今も大好きな鳥飼久美子先生の番組はよく聞いた。御園先生の番組も大好きだった。

教員になって、中学生が学校全体で NHK 教育ラジオの「基礎英語Ⅰ～Ⅲ」を聞いていたので、一緒に聞き、自分は「英会話」を毎日聞いていた。今でも大杉正明先生の番組構成や教材選択は最高だと思う。自分の授業にも影響を受けた。

そして、専修免許取得と修士取得のために放送大学大学院のお世話になった。

今年度は、特別支援教育の勉強と特別支援教諭2種免許取得のために、放送大学専科生になっている。

私の学びのほとんどが、放送による学習であり、今後も続くと思う。

最後に付け加えるが、放送による学習の究極は、海外短波放送の受信だ。小学生の頃、BCL ブームが起こり、海外の短波放送をよく聞いた。

周恩来、毛沢東、ブレジネフの死去も北京放送やモスクワ放送で聞いた。小学生の頃から世界が自分の目の前にあった。

高校生は FEN や VOA を毎日のように聞いた。成績は悪かったが、英語や音楽が大好きであった。また、受験は、旺文社のラジオ講座である。数学の寺田先生、土師先生の講義は印象に残る。浪人した友人に代ゼミで土師先生の色紙を書いてもらった。今でも家にある。すばらしい先生方にラジオを通して教えを得たものだ。

大学ではアマチュア無線による英語の交信……。まさに世界の中に自分はいた。

そして今は、RADIO CHINA INTERNATIONAL の英語を聞きながら、寝付くのである。

これは、誇らしいキャリアであると思っている。誰にもできるが、誰もあまりできない私の財産である。

自分の懐に大切に留めておきたい。